

平成30年度 日本大学高等学校・中学校 自己評価票

【本校の目指す学校像】

本学の「日本大学憲章」に定める「日本大学マインド」を理解し、教育理念である「自主創造」の3つの構成要素及びその能力である「自ら学ぶ」、「自ら考える」、「自ら道をひらく」を体現させるため、校訓「情熱と真心」、教育目標「自覚と責任」を掲げた教育活動を展開し、国内外で活躍し社会に貢献できる人材育成のための基礎作りを目指す。

平成29年度より「Aiming high!」を教育スローガンに掲げた教育のグランドデザインを策定し、生徒及び教職員にこれを周知している。「Aiming high!」、「凡事徹底」、「寧生致遠」を夢の実現のための3つの重要要素として意識化・習慣化を図ることで、進路目標の実現を目指すとともに、卒業時には生徒・保護者が「行って良かった」「行かせて良かった」と満足度を高める教育活動を展開するために、学校力の向上を果たす。

【本校の特長及び課題】

創設88年の歴史と伝統の中で、文武両道の精神のもと、学習活動や部活動に「情熱と真心」を込めて真摯に取り組む教育活動を展開している。今後の少子高齢化、グローバル化、IT技術の発達といった社会情勢の変化と、次期学習指導要領の改訂、高大接続改革に関わる新テストの導入といった教育の大改革を迎えるに当たり、教育内容及びシステムを大きく進化させている。

まず、「確かな学力」を身に付けるために、主体的で深い学びの実現を目指したアクティブ・ラーニング型授業を展開しており、その充実のために他校に先駆けて「ICT教育」を推進している。そして、「世界の人と協働する力」を身に付けるために、「グローバル教育」、「英語4技能の充実」を推進するとともに、各種海外研修・留学や海外修学旅行を展開し、異文化理解や多様性理解力のかん養に努めている。さらに、部活動や体験型キャリア教育を通じ、文武両道の精神とともに人間力の向上に努めている。

また、中学校2コース制・高等学校3クラス制というシステム改革を行い、生徒及び保護者の多岐にわたる学校生活や進学希望に応えている。将来的には、中学校2コース制・高等学校3クラス制をどのように接続させるか、中高一貫化も視野に入れた枠組みを検討する。それを次期学習指導要領の改訂時に導入できるよう、カリキュラムマネジメントを進める。

加えて、経営の安定化を図るため、受験生及びその保護者から選ばれる学校となるよう、教育力の強化向上を目指し、様々な新たな特色ある施策の打ち出しを検討する。

平成30年度を取組結果

【概況】

各評価項目における取組目標については、おおむね良好な進捗状況であった。達成目標によっては、年度内に全てを完了できるものとは限らず、達成状況に関しては結果をすぐに判定することができないものがあり、客観的に指導できるよう、風通しの良い状態を常に意識した環境づくりに努めた。今後も、授業評価アンケート・教員自己点検・学校自己点検などを活用するとともに、学校独自のアンケートを実施し、それをもとに点検評価の上、PDCAサイクルを構築していくことが大切である。

教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
「新学習指導要領」や「高大接続改革」施行に向けての取組	「新学習指導要領」に対応したカリキュラムを各教科及び進路指導部等の関係分掌と連携して原案を作成・提示し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から検討し、カリキュラム検討委員会で審議し決定した。	C
教員の資質及び教授指導技術向上のため	・長期休業期間(夏・冬・春)を利用して、各種研修会への積極的な参加を促し、教科指導力のスキルアップの機会とした。	A

<p>の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ICT機器を活用したアクティブ・ラーニング（AL）研究授業」を実施した。教員の研さん・研修の機会とし、教授指導技術の向上に努め、生徒にとって満足度の高い授業づくりに取り組むことを目的とした。 ○AL研究授業 5～6月、10～11月、2月も期間で各教科学期に1回実施 ※11月は、5時間目に全教科一斉に実施した。 6・7時間目に授業の反省及び意見交換を行うことにより、授業方法の改善などを中心に、担当教員同士での教授法を検証する機会が増えた。 ペアワークやグループワークを取り入れる機会が増えた。 	
------------	---	--

学校生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
<p>いじめ防止のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度始めに教職員・保護者に対して、学校の取組と姿勢を周知する。適宜、ホームルームを通じて注意喚起を行った。 ・定期的な(各学期に最低1回)個人面談を実施し、いじめの兆候の把握に努めた。 ・アンケート調査(年2回)を実施し、いじめの兆候の把握に努めた。 ・ネットパトロールの専門業者に委託し、定期的に調査を行い、ネット上の問題の早期発見に努めた。 ・部活動も含め、保護者からの相談に対しては、事実関係を早期に確認し、初期対応の遅れがないように全力を尽くした。また、必ず複数で対応し、組織的な対応の徹底を図り、時系列に従って記録を残した。 ・スクールカウンセラー、担任との情報共有や連携を図り、必要に応じては、警察(生活安全課)等の専門機関へ報告・相談し連携を図った。 ・年度始めの教職員会議において、日本大学本部作成の「いじめ防止リーフレット：日本大学はいじめを絶対許しません(教職員用)」を活用し、本学としてのいじめ防止への取組の周知徹底を図った。 ・保護者懇談会において、同様のリーフレット(保護者用)を配布し、家庭への啓蒙を図った。特に、気がかりな情報や問題発生の兆候があった場合、家庭との速やかな連携協力のもと、学校が早期に事実関係の調査確認を行うことを説明した。 ・スクールカウンセラーとの定期的な情報交換を実施し、必要に応じて、担任や保護者も同様に情報共有を行った。 ・インターネット上(SNS)でのいじめ防止について「サイバー犯罪防止講演(生徒及び保護者対象)」の実施時に「不適切な表現について」触れてもらい、注意喚起した。 	<p>A</p>
<p>通学状況の改善(服装・頭髪・遅刻等の指導徹底)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・始業式や学年集会等において講和を実施し、通学マナー・交通安全についての意識の向上に努めた。 ・交通安全の意識を高め、スクールバスの乗車率を上げた。 ・自転車事故防止指導及び保険加入の推進に力を入れた。 ・時差登校(中高)を遵守させ、登校時の生徒人数の集中を軽減し、分散化を図った。 ・服装・頭髪・遅刻等の指導については、さらに学年・担任との連携を図ることが課題となっており、実施方法に改善が必要である。 ・ホームルーム指導、登校指導、下校指導を継続し、特に、常習傾向にある生徒の継続的な指導に努め、遅刻者数の減少に取り組んだ。 	<p>B</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路及び車内でのマナー等，思いやりの心の大切さ，ルール遵守の規範意識を育てていくよう，年3回の強化週間を実施した。 ・タブレット使用マナーや校内スマートフォン使用によるトラブル防止のため，ルールの存在を認識させるために，「使用のルール」の教室掲示や全生徒のタブレットへ注意喚起を配信した上で，ルール遵守の徹底に取り組んだ。 	
--	--	--

課外活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
学校行事の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生歓迎会では部活動紹介を行い，中・高ともに積極的に部活動に参加するように呼びかけた。 ・桜苑祭は，高校1・2年は全クラスが参加，中学は学年参加，文化部は全ての部が参加しており，運動部も可能な限り公開練習等で参加し，生徒会が中心となって企画・運営をし，展示・ステージともに充実させられるよう工夫した。 ・生徒会行事として以下の行事を展開した。 4月 入学式へ参加，新入生歓迎会の運営 5月 体育祭・球技大会の運営 6月 生徒会正副会長選挙の実施 9月 桜苑祭(文化祭)の運営 3月 卒業式への参加 	A
部室棟の美化と管理	<ul style="list-style-type: none"> ・部室棟の共用部を常にきれいにしておくために，生徒会が中心となって定期的に私物や持ち主不明の物の撤去を行った。週ごとの清掃当番表を作成し，部室棟を使用している全ての部活動で分担して清掃に当たった。(当番表作成) また，年1回，部室移動を実施して各部室の大掃除を行った。 ・定期的に部室棟を使用している部活動顧問の先生方による見回りを実施し，部室棟の美化と管理を徹底した。 	B

進路指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
日本大学への進学者数増加に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の16学部訪問の実施 ・基礎学力到達度テスト対策講座の開講 ・学部説明会や日本大学進学相談会の7月実施 ・日本大学オープンキャンパス参加への奨励 ・卒業生による学部・学科説明会の開催 	A
学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・チューター制自習室の開室 ・校内予備校の開講 ・iPadを利用した教育内容の充実 ・長期休暇中の講習会の開催 	A
進路観の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学部訪問や企業訪問 ・オープンキャンパスや進学フェアへの参加の奨励 ・社会人講演会の実施，あるいは，講演会に代わる動画の配信 	B

保健衛生

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒の健康管理	<ul style="list-style-type: none"> ・定期健康診断と保健調査（生徒健康診断 100%受診） ・学校医による校外活動のための健康診断の実施（学校医による健康診断の該当生徒全員の受診） ・色覚検査の実施（色覚検査は、希望者に対して学校医が実施） ・健康診断の日程及び内容の周知徹底 ・時期に応じた保健情報の提供 熱中症、インフルエンザ、ノロウイルス（感染性胃腸炎）などの流行情報を即座に伝えた。（感染防止の呼びかけを強化） ・生徒のメンタルケア スクールカウンセラーとの情報共有。必要時、担任、保護者との連携 ・健康診断結果及び勧告書は、健診業者より送られてきたら迅速に配布した。 ・時期ごとに「保健だより」で情報提供を行った。 	A
傷害事故の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・傷害事故の把握（部活動顧問・担任との連絡を密にする） ・傷害事故報告書を作成し、教職員会議で毎月報告 ・災害共済給付の手続き 	A

図書

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
図書館における広報活動の継続	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館通信」「新着案内」「Library」を発行した。 ・「読書強調句間：図書委員の推薦図書」を生徒図書委員が作成した。 ・「授業関連」「特集」「列の一冊」「この棚にはこんな本があります」などのコーナーを展開し、読書への意識を高める取り組みを継続させた。 ・4月に図書館ガイダンスを実施 ・「図書館利用ガイド」と「読書ノート」「日大高校・中学の100冊」を一冊にまとめて全校生徒・全教職員に配布した。 ・月ごとに『図書館通信』等を発行した。 	A
生徒一人ひとりが活用しやすい環境とシステム作り	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット型百科事典・データベースなどへのアクセス環境を整備した。 ・蔵書の更新に努め、アクティブ・ラーニングやクリティカルシンキングなどの教育活動の拠点となり得る陣容を整えた。 	A

広報

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
広報活動のさらなる充実	<ul style="list-style-type: none"> ・部内の組織を改編し、組織的に動ける体制を整えた。 ・ウェブを効果的に利用し、効率よく広報活動を行った。 ・他校とは一線を画す魅力的な学校案内パンフレットやホームページを作成し、本校の認知度を高めた。 	B
活発な受験生募集	<ul style="list-style-type: none"> ・受験生・保護者のニーズを把握し、選ばれる学校づくりを推し進めた。 ・都内受験生への認知度を高め、マーケットの拡大を図るよう努めた。 ・受験生目線に立った入試システムやスケジュールを検討し、受験しやすい入試を構築するよう努めた。 	A

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
施設の保全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・竣工後 15 年近くを迎えるキャンパス内の建物・設備の保全管理のための中規模修繕を、複数年計画で策定の上、順次実施中である。 とりわけ、本校がPRポイントとしている“安全面・衛生面に配慮された快適な施設で過ごす学校生活”を体現するため、各教室の電気錠改修やトイレ・シャワー室などの給排水設備などの“インフラ設備”の保全管理に重点を置いた。 ・今年度は、複数年にわたる中規模修繕計画に基づく実施の初年度として、老朽化が著しい箇所に修繕を施すことにより、学校関係者の目に見える形で校内環境美化の改善が分かり、ランニングコストやスポットによる修繕費の削減が大きく見込める各教室の電気錠の改修（4件 10,914,642 円／主に普通教室の電気錠からシリンダー錠への仕様変更）及び給排水設備修繕（2件 2,745,600 円／主に漏水箇所の修繕）などの“インフラ設備”の修繕を行った。 ・電気錠の改修に当たっては、教室の入退出の安全管理の向上はもとより、直近の更新コストを当初支出予定額の1/4（1,000 万円弱）に抑制するなど、支出抑制にも大いに貢献した。 	A
大規模災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害時に必要となる防災備蓄品及び備蓄量を国のガイドラインに従い検討し、品目の見直しと買い増しを行った。 ・防災用備蓄飲料水を 13,200 本（500ml 1 缶）買い増し、生徒及び教職員全員（約 2,500 名）が3日間必要とする飲料水を確保した。 ・生徒に配布する防災用品セット（非常食を含む）を見直し、内容を4点から10点へ品目を増加させ、非常食にはアレルギー対応の食品を追加した。 ・防災用ヘルメットを全教職員分（250 個）購入するなど、防災用品の拡充に努めた。 	A

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

平成31年度の取組目標及び方策

教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
「新学習指導要領」や「高大接続改革」施行に向けての取組	「新学習指導要領」に対応したカリキュラムを各教科及び進路指導部等の関係分掌と連携して原案を作成・提示し、カリキュラム検討委員会で審議決定する。	年度内の決定を目指す。
教員の資質及び教授指導技術向上のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業期間（夏・冬・春休み）を利用して、各種研修会への積極的な参加を促す。 ・授業参観や研究授業の機会を増やし、個々のスキルアップを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して積極的に各種研修会に参加する。 ・学期ごとの授業参観・研究授業を充実させ、意見交換の機会を増やす。

学校生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
いじめ防止のための取組	・年度始めに教職員・保護者に対して、学校の取組と	・4月いじめリーフレットを活用し

	<p>姿勢を周知する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜、ホームルームを通じて注意喚起を行う。 ・定期的な(各学期最低1回)個人面談を継続する。 ・アンケート調査(年2回)を実施する。 ・部活動も含め保護者からの相談に対しては、事実関係を早期に確認し、初期対応に全力を尽くす。必ず複数で対応(組織的に対応)の徹底を図り、時系列に従って記録を残していく。 ・スクールカウンセラー、担任との情報共有や連携を図る。 ・必要に応じて警察(生活安全課)等の専門機関へ報告・相談を行い連携していく。 ・年度始めの教職員会議において、日本大学本部作成の「いじめ防止リーフレット:日本大学はいじめを絶対許しません(教職員用)」を活用し、本学としてのいじめ防止への取組の周知徹底を行っていく。 ・保護者懇談会において、同様の保護者用リーフレットを活用し、家庭での気がかりな情報や問題発生の兆候があった場合、家庭との連携協力のもと、学校が早期に事実関係の調査確認を行うことを説明する。 ・スクールカウンセラーとの定期的な情報交換を実施する。 ・インターネット上(SNS)での不適切な書き込みによるいじめ防止についてサイバー犯罪防止講演実施の折に「適切な表現について」触れてもらう。 	<p>ガイダンスを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査前に担任による個人面談実施 ・4月・12月にアンケート実施 ・研修等実施し、初期対応についての個々のスキルアップを行う。 ・学警連においての情報共有 ・4月サイバー犯罪防止講演を実施(保護者・生徒)
<p>通学状況の改善 (服装・頭髪・遅刻等の指導徹底)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・始業式や集会等における講和を通し、通学マナー・交通安全についての意識の向上に努めていく。 ・交通安全の意識を高め、スクールバス乗車率を上げる。また、自転車事故防止指導及び保険加入の推進に力を入れる。 ・時差登校(中高)を遵守させ、登校時の生徒人数の集中を軽減し、分散化を図る。 ・8時25分着席完了を遵守させ、“遅刻ゼロ”に努める。 ・服装・頭髪・遅刻等の指導については、さらに学年・担任との指導方法について連携を図る。 ・ホームルーム指導、登校指導、登下校指導を継続し、遅刻生徒の減少に努める。 <p>また、常習生徒の改善に向けた継続的な指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学路及び車内でのマナー等、思いやりの心の大切 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月始業式・新入生ガイダンスにおいて実施 ・4月自転車許可申請説明会にて指導 ・年3回の強化週間にて指導 ・毎朝の立門指導において指導 ・4月「学校生活要綱」を使用し、新入生ガイダンスにて説明実施

	<p>さ、ルール遵守の規範意識を育てていく。</p> <p>年3回の強化週間を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット使用マナーや校内スマートフォン使用によるトラブル防止のため、ルールの存在を認識させるために、「使用のルール」の教室掲示や全生徒のタブレットへ注意喚起を配信した上で、ルール遵守の徹底に取り組む。 	
--	---	--

課外活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
学校行事の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を中心に主体的に活動するため対話を重視した運営をしていく。 ・新入生歓迎会では部活動紹介を行い、中・高ともに積極的に部活動に参加するように呼びかける。 ・桜苑祭 高校1・2年の全クラス参加、中学は学年参加、文化部は全ての部が積極的に参加、運動部もできる限り公開練習等で参加してもらう。 生徒会が中心となって企画・運営をし、展示・ステージともに充実させられるようにする。 ・各行事や式典等において、厳粛さの中にも「情熱と真心」に基づいた運営を心がけ、生徒のアイデアも可能なものは尊重していく。 ・ボランティア活動においても生徒の意見も取り入れながら進めていく。 	<p>4月 入学式、新入生歓迎会</p> <p>5月 体育祭・球技大会</p> <p>6月 生徒会正副会長選挙</p> <p>9月 桜苑祭(文化祭)</p> <p>2月 日本赤十字献血</p> <p>3月 卒業式</p>
部室棟の美化と管理	<ul style="list-style-type: none"> ・週ごとの清掃当番表を作成し、部室棟を使用している全ての部活動で分担して清掃に当たる。 (当番表作成) ・年1回部室移動を実施して各部室の大掃除を行う。 ・定期的に部室棟を使用している部活動顧問の教員による見回り指導を実施し、部室棟の美化と管理を徹底する。 	通年

進路指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
日本大学への進学者数増加に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の16学部訪問 ・基礎学力到達度テスト対策講座の開講 ・学部説明会や日本大学進学相談会の実施 ・日本大学オープンキャンパス参加への奨励 ・卒業生による学部・学科説明会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・通年 ・夏休みと春休みに開講 ・学部説明会は適宜 ・日本大学進相談会は7月 ・オープンキャンパス参加への奨励 6月～9月
学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・チューター制自習室の開室 ・校内予備校の開講 	<ul style="list-style-type: none"> ・通年 ・通年

	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを利用した教育内容の充実 ・長期休暇中の講習会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・通年 ・春休みと夏休み
進路観の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学部訪問や企業訪問 ・オープンキャンパスや進学フェアへの参加の奨励 ・進路指導計画表の作成と周知 ・社会人講演会等の実施 	

保健衛生

取組目標	取組方策	取組スケジュール
生徒の健康管理	定期健康診断と保健調査	生徒健康診断と保健調査を実施する。(100%受診と調査用紙の回収と管理。また、欠席者及び海外留学からの帰国生徒のフォロー健診実施) 診断結果及び勧告書を配布する。
	学校医による校外活動・スキー教室等のための健康診断の実施	学校医による健康診断は該当生徒(健診希望者)に対して実施
	学校医による色覚検査の実施	色覚検査は、希望者に対して実施
	時期に応じた保健情報の提供	「保健だより」やポスター等で、感染症の流行時期に合わせて、感染防止の呼びかけを強化する。
傷害事故の管理	傷害事故の把握(担任・担当教諭・部活動顧問との連携)	<ul style="list-style-type: none"> ・傷害事故報告一覧を作成し、教職員会議で毎月報告する。 ・災害共済給付の手続きを行う。

図書

取組目標	取組方策	取組スケジュール
図書における広報活動の継続	「Library」「新着案内」「図書館利用ガイド(読書ノート)」「日大高校・中学の100冊」などの刊行物や図書委員の手作りのポスター掲示などの活動を通して広報活動に努める。	通年
生徒一人ひとりが活用しやすい環境とシステム作り	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンを使用する際の検索システムの充実、読売新聞など電子版検索の充実を図る。 ・アクティブ・ラーニング対応への情報提供に向けた書籍や入試関連書籍の充実を図り、学習空間の充実を行う。 ・海外研修の情報を収集及び提供に努める。 	通年

広報

取組目標	取組方策	取組スケジュール
広報活動のさらなる充実	<ul style="list-style-type: none"> ・広報部内の組織、業務内容の再検証・再確認を行い、年度を通じて組織的に対応できる体制を整備する。 ・効果的な広報活動を行うために、業務におけるPD 	通年

	CAサイクルを構築徹底し、それぞれの業務に対する分析を強化する。	
活発な受験生募集	ターゲティングを明確にし、効率よく広報活動を行っていく。特に本校を広く認知してもらい、「ここで学びたい」と思ってもらえる受験生を増やすことに注力をする。	通年

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
施設の保安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の“安全面・衛生面”の改善・向上について更新周期やメンテナンスコストも考慮した上で、財務に及ぼす長期的・短期的影響を評価し、計画的かつ綿密な施設設備計画に沿って実施する。 ・更新・メンテナンス費用や、手間がかかり陳腐化の激しい“デジタル物件”（教室の電気錠など）については、今一度その必要性・費用対効果を精査の上、不要不急であれば“アナログ物件”（教室の鍵をシリンダー錠にするなど）仕様変更するなどの既存設備等のスクラップを検討する。 	施設保全に関する中・長期計画を費用対効果の観点からも再度精査し、施設設備の“スクラップ&ビルド”を盛り込んだ中・長期計画を今年度中に策定し、来年度の予算から反映させたい。
大規模災害への備え	大規模災害時に必要となる防災備蓄品及び備蓄量を国及び地方自治体が定めるガイドライン等を参考に防災用品の拡充に努める。具体的には、全教職員分の防災用品セット（非常食含む）の備蓄の積み増し及び、全生徒分の防災用ヘルメットなどの購入を検討する。	毎年の予算に防災予算を計上し、計画的な防災備蓄の積み増しに努める。

中長期的目標の取組結果

教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
ICT教育の継続 アクティブ・ラーニング推進	ICT教育、アクティブ・ラーニング研修等への参加やアクティブ・ラーニング研究授業の実施により、教員の指導技術の向上を図っている。特に、ICT機器を活用したアクティブ・ラーニング研究授業を全教科で実施している。 (教員研修・研さん)	A

進路指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
進路観の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学部訪問や企業訪問の実施 中学1年生から日本大学各学部への訪問を実施し、3年間でほぼ全学部の訪問及び体験学習等に参加している。日本大学推薦入試について、生徒・保護者への全体説明会及び面談等を実施している。 ・オープンキャンパスへの参加の啓もう 大学教員等の有識者による講演会を実施した。 	B

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
施設の保全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・竣工後 15 年近くを迎えるキャンパス内の建物・設備の保全管理のための中規模修繕を複数年計画で策定の上、順次実施する。とりわけ、本校がPRポイントとしている“安全面・衛生面に配慮された快適な施設で過ごす学校生活”を体現するため、各教室の電気錠改修やトイレ・シャワー室などの給排水設備などの“インフラ設備”の保全管理に重点を置いた。 ・今年度は、複数年にわたる中規模修繕計画に基づく実施する初年度として、老朽化が著しい箇所に修繕を施すことにより、学校関係者の目に見える形で校内環境美化の改善が分かり、かつランニングコストやスポットによる修繕費の削減が大きく見込める各教室の電気錠の改修（4件 10,914,642 円／主に普通教室の電気錠からシリンダー錠への仕様変更）及び給排水設備修繕（2件 2,745,600 円／主に漏水箇所の修繕）などの“インフラ設備”の修繕を行った。 ・電気錠の改修に当たっては、教室の入退出の安全管理の向上はもとより、直近の更新コストを当初支出予定額の 1 / 4（1,000 万円弱）に抑制するなど、支出抑制にも大いに貢献した。 	A
大規模災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年度入学者が購入する防災用品セットの品目の見直しを図り、不足している水などを購入した。教職員全員にヘルメットを購入し配布した。 ・大規模災害時に必要となる防災備蓄品及び備蓄量を国のガイドラインに従い、防災用備蓄飲料水 13,200 本(500ml 1 缶)を買い増し、生徒及び教職員全員(約 2,500 名)が 3 日間必要とする飲料水を確保した。また、生徒に配布する防災用品セット(非常食を含む)を見直し、内容 4 点から 10 点へ品目を増加させ、非常食にはアレルギー対応の食品を追加した。さらに、防災用ヘルメット全教職員分(250 個)を購入するなど、防災用品の拡充に努めた。 	A

※【A達成できた, B大体達成できた, Cあまり達成できなかった, D達成できなかった】

中長期的目標及び方策

教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
「新学習指導要領」施行に向けての取組	「新学習指導要領」に対応したカリキュラムを各教科及び進路指導部等の関係分掌と連携して原案を作成・提示して、審議・決定する。	4月～9月 「主体的・対話的で深い学び」の視点を鑑み検討

進路指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
進路観の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学部訪問や企業訪問 ・オープンキャンパスや進学フェアへの参加の奨励 ・進路指導計画表の作成と周知 ・大学教員等の有識者による講演 ・社会人講演会等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・通年 ・通年 ・4月 ・適宜 ・適宜

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
大規模災害への備え	<p>大規模災害時に必要となる防災備蓄品及び備蓄量を国のガイドラインに従い、防災用備蓄飲料水13,200本(500ml缶)を買い増し、生徒及び教職員全員(約2,500名)が3日間必要とする飲料水や防災用品セット(非常食を含む)を維持する。</p>	<p>・通年(4月確認) ※新入生を含めた備蓄の再確認</p>
施設の保全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・本校のPRポイントの一つである“安全面・衛生面に配慮された快適な施設で過ごす学校生活”を体現化して行くためにも、キャンパス内の施設・設備の修繕計画を中期(竣工後15年)・長期(竣工後30年)で見据えながら策定し、実施検討項目の優先度と実施周期を勘案しながら着手する。 ・保全管理における長期計画で予定している主な改修工事は、①校内照明LED改修工事②校内監視カメラの更新③第1グラウンド人工芝及び周回部ゴムチップ舗装部分の改修④第2グラウンド人工芝及びアンツーカー部分の改修などである。 ・12年後の創設100周年に向けて記念事業を展開する。 「さくらホール」「100-50記念館」の老朽化に伴う建替え事業も含めたこの先11年中・長期的なプロジェクトを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通年 ・竣工後15年近くを迎えるキャンパス内の建物・設備の老朽化が進み、予定外の修理・修繕が頻発する傾向にある。 ・更新周期やメンテナンスコストも考慮した上で、財務に及ぼす長期的・短期的影響を評価し、計画的かつ綿密な施設設備計画のもと、速やかに着手したい。 ・来年度90周年を足掛かりに、創設100周年記念事業を立ち上げ、組織的かつ計画的に推進する。